

樂壇の第一線に活躍しつゝある花形歌手をその教へ子に持つネットケ・レーヴエ夫人が、上野の音楽學校に於ける滿七ヶ年の長い教壇生活に別れを告げ、華やかな告別放送を最後に故國獨逸に去つたのは未だ音楽フアンの記憶に新しいところだ、併し幾許もなくして先生は再び懐しの日本に歸つて來た、先生はナチスのため故國を追はれたのであつた、何となれば先生の血の中にはユダヤ人の血が混つてゐたから……

思ひ出の國日本は再び先生を暖い腕で抱擁してはくれたが、以前の様な華やかな教壇生活をくり返すすべもなく今は芝白金三光町の自宅で個人教授に寂しいその日を送りつゝはや今年は滞日十年となつた、故郷にも容れられず異郷の空にわびしい餘生をすごしてゐる恩師を慰めてあげようといふ話が最近教へ子である佐藤美子、徳山璉、澤智子さん等の間に起り、かつての教へ子は勿論四家文子、平井美奈子、河原喜久恵、内田榮一氏等我樂壇を總動員して今夜帝國ホテル演藝場に華やかな謝恩音樂會を開くことになつたのだ

入場料全部は勿論恩師レーヴエ先生に進呈されるが、かつて先生の教へを受けた人達や音楽フアンに先生の名を甦へらせ、一人でも多くのお弟子が殖えれば……といふ温かい教へ子達の眞心と女らしい心遣ひに、先生の眼はともすれば濡れがちである

〔都新聞〕昭和十年一月二十日

〔奏任待遇についての上申案ならびに通牒〕

音席第三六號 大正十五年十月一日起案

上申案

本校備外國人教師シャールレス・ラウトルツプ外二人職務勤勉授業上ノ成績良好ナルヲ以テ身分取扱奏任ニ準セラル、様致度各本人ノ履歷書ヲ添へ上申致シマス

年月日

校長

文部大臣宛

〔外國人教師關係 自大正十一年至昭和十一年〕
〔手書き〕

大正十五年十月十三日

文部大臣官房 秘書課長印

東京音樂學校校長殿

通牒

東京音樂學校備外國人教師

獨國人 マルガレテ、ネットケ、レーウエ

露國人 ヨセフ、カガノフ

丁抹國人 シャールレス、ラウトルツプ

右三名儀自今奏任ニ準シ取扱ハル

〔和文タイプ〕

〔外國人教師關係 自大正十三年至昭和十一年〕

(六) ヨセフ・カガノフ (レオニード・コハンスキー) Josef

Kaganoff (Leonid Kochanski)

在職期間 大正十四年〜昭和六年 (一九二五〜一九三二)

外國教師・外國人教師

担当科目 ピアノ

履歷(要約)

- 一八九三年十一月二五日ロシアのオーレルに生まれる。
- 一九〇六年ライプツィヒに移り、同地音楽学校を一九一〇年卒業する。
- 一九一九年ベルリンで師シ・クロイツァーの助手として後進の指導にあたるかたわら、兄パーヴェウらとドイツ・北アメリカで芸名レオニード・コハンスキーとして演奏活動を行う。
- 一九二五年(大正十四年)〜一九三一年(昭和六年)東京音楽学校外国教師。その後パリにて演奏・教授活動を行う。
- 一九五三年(昭和二十八年)武蔵野音楽大学教授として再来日。
- 一九六六年(昭和四十一年)離日。
- 一九八〇年一月十二日フランスのエル・シユル・ラドゥールにて没。門下生に福井直俊、井口基成・秋子・愛子、館野泉、豊増昇ら。

歐二第二四八號

大正十三年十二月十八日

在獨

特命全權大使 本多熊 大印

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

東京音楽學校雇教師「ヨゼフ、カガノフ」假契約

送付ノ件

本年十月廿一日附歐二普通第九四號ヲ以テ御申越相成候東京音楽學校雇教師今般當地留學中ノ文部省在外研究員高折宮次ノ詮衡ニ係ル露國人「ヨゼフ、カガノフ」(別紙本人履歷書參照)ト本月十六日假契約締結ノ次第ハ往電第三一二二號ヲ以テ及申報候處右假契約書

別紙ノ通り茲及送付候條先方へ傳報方可然御取計相成度此段申進候

敬具

〔外國人雇備雜件〕外交資料館蔵

官專六二號

大正十四年二月十日

文部省専門學務局長 栗屋 大印

東京音楽學校長 村上直次郎 殿

東京音楽學校外人教師僱聘ニ關スル件

本件ニ關シ在獨文部省在外研究員高折宮次詮衡ニ係ル露國人ヨセフ、カガノフト客臘十八日僱聘假契約ノ締結ヲ了シタル旨在獨大使ヨリ外務省ニ來電アリタル趣ニ候處今般同大使ヨリ外務省ヲ經テ別添ノ通り右假契約書一通竝ニ履歷書正副各一通送付越候條右茲ニ轉送候也 (終)

〔和文タイプ〕〔外國人教師關係〕自大正十三年至昭和十一年

Lebenslauf.

Ich bin geboren am 25. Nov. 1893 in Orel. Meinen ersten Musikunterricht erhielt ich in Odessa in der Kaiserlichen Musikschule. Im Jahre 1906 zogen meine Eltern mit mir nach Leipzig; ich wurde dort sofort in das Königliche Konservatorium aufgenommen und machte im Jahre 1910

die Reifeprüfung mit einer Prämie Kurze Zeit darauf begann ich zu konzertieren in Deutschland und Frankreich. Meine Konzerttätigkeit wurde dann durch den Krieg unterbrochen.

Im Jahre 1919 zog ich von Leipzig nach Berlin und arbeitete mit Prof. Kreutzer. 1920 fing ich wieder an zu konzertieren und spielte seit dem über ganz Deutschland. Die Saison 1923 - 24 war ich in Nord - Amerika und spielte dort in allen grösseren Städten.

Von meinem fünfzehnten Lebensjahre ab habe ich viel Unterricht erteilt, war Assistent von Professor Kreutzer der an der Hochschule in Berlin tätig ist; Ausserdem war ich ein Jahr Professor an einem Privatkonservatorium in Berlin.

Als Inhaber eines Passes der Internationalen Liga (Nansen) gelte ich als statutenlos. In Russland bin ich seit 1906 nicht mehr gewesen.

gez. Leonid Kochanski (Künstlernamen)
(Josef Kaganoff)

Berlin-Schöneberg, am 5. Dez. 24.

Heilbronnerstr. 12^m

(「外國人教師關係」自大正十三年至昭和十一年)

十四年四月八日起案 決定 決行

本月四日附備入契約ヲ締シタル外國人教師ヨセフ・カガノフノ俸給ハ曩ニ一ヶ月金六百圓ノ豫定ヲ以テ御許可ヲ得マシタガ今回金五百

圓ト改定シタルニ付報告致シマス
大正十四年四月八日

校長

文部大臣宛

(手書き)

(「外國人教師」自大正十三年至昭和十一年)

コハンスキ教授送別洋琴演奏會

東京音樂學校洋琴科教授レオニード・コハンスキー氏は愈々満期となり歸國することゝなつたので氏の教へ子達が集り一月廿一日夜七時日本青年館で送別演奏會を催ふことゝなつた。出演者及び曲目は左の通り。

山越八重子バツハ・リスト作イ短調前奏曲とフーグ、木村ゆき、
一藤幸子二重奏モーツァルト作ブゾーニ編魔笛の序曲、遠山つや子
ベートーヴェン作告別奏鳴曲、赤羽田鶴子メンデルスゾーン作變ロ
短調練習曲、シユーパート作へ短調即興曲、吉原千重子シユーマン
作花の曲、ヴェレット第一、澤崎秋子シヨパン作ニ短調奏鳴曲、見
田公子リスト作グノメン舞曲、十四行詩、パガニニ練習曲、平戸富
美代、平戸喜代子二重奏アレクサンダー作組曲。

(「音楽世界」三一 昭和六年一月号 一五四頁)

(七) シャーレス・ラウトルップ Chales Lautrup

在職期間 大正十五年〜昭和六年

外國教師・備外國人教師

担当科目 管弦樂、合唱、唱歌